

総合的な探究の時間

「探究活動」講演会

対象:1学年普通科生徒全員

令和6年11月14日(木)6・7校時

11月14日(木)に第2体育館において、本格的に探究活動を始める前に、なぜ取り組むのかを理解し、これからの探究活動の進め方について、慶應義塾大学SFC研究所上席所員の星野先生をお招きして講演をしていただきました。

高校生が社会で活躍する10～20年後は、既存の知識では対応できない今より予測不可能な時代が到来します。また、体力的にきつい仕事や危険な仕事などをロボットが代替し、専門知識が必要な頭脳労働もAIが担うことになれば、上司に指示された仕事だけをする人材は必要とされなくなります。それでは、そのような時代に求められるのは、どういう人材か。それは、自ら考え、判断し、行動できる人材です。そのような時代の要請もあり、総合的な探究が導入されました。

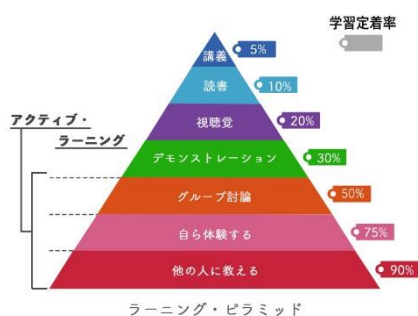
総合的な探究で身につける力は、

- ① 変化の激しい社会に対応する思考力・活動力
- ② 物事の本質をとらえる見方や考え方を駆使して問題解決する力
- ③ 自己の生き方やあり方を考える資質・能力

とされています。

今までの総合的な時間は、調べ学習に終始してしまいましたが、総合的な探究では、調査に基づいた仮説をたて、先行事例や研究の有無・内容の把握。その課題をどの順序で解決できるか。また、一連の流れをまとめ、伝える。この延長上に総合型選抜試験があります。付け焼き刃でできるものではありません。2022年度から導入された共通テストでは、思考力・論理力・記述力を問う思考型問題も出題されており、総合的な探究での学びが一段と必要性を増しています。

この入試に対応するためにもこれからの学びのスタイルはどうあるべきか



教師が講義し、黒板に板書した内容を暗記する形式の学習では定着率が5%と低いです。それを補うためには幾重もの反復学習が必要になります。しかもっと効果的で深い学びは、自身の体験や活動の中で、教科学習で得られた知識を実際に利活用しながら、社会における知識や情報とも関連づける「精緻化」によって得られます。さらに、それを人に教える、すなわちプレゼンすることで圧倒的に定着率も高まります。



探究テーマを見つける方法は、大きくは2つあります。

好きを極める	嫌だを解決する
『アート思考』 自分の好きを極限まで突き詰め、社会に役立つ、新価値を創造する。	『デザイン思考』 社会や身の周りにある(自分・みんなにとって)嫌な問題を発見し、解決を試みる。制作会社がデザイン作業を行うプロセスから生まれた考え方。
	『マーケティング思考』 市場調査・分析から顧客のニーズを探り、顧客モデルを設定し、それに則った商品企画、情報発信、利用・購買促進等の施策を立案する。

プロジェクトに取り組む時に欠かせないことは、探究に値する仮説かを見極めることです。

- ・社会において課題として成立するか
- ・自分にとっての課題である仮説か
- ・解決できる仮説として設定できるか(先行事例の有無)
- ・仮説に基づいて活動・実証研究が可能か

見極めるには、ロジカルシンキング(論理的思考)とクリティカルシンキング(批判的思考)を用いて、自らに問いかけ、仮説の妥当性を検証する必要があります。

ロジカルシンキング: 物事の結果と原因を明確にとらえ、両者のつながりに矛盾がないかを検証していく思考法。A→B→C→Dの順で検証し、論理的整合性はあるか。

クリティカルシンキング: その思考や分析の妥当性に敢えて疑問に持ち、客観的に検証していく思考法。

クリティカルシンキングを取り入れた実践例

- グループディスカッション(プレゼンする。グループメンバーからの質疑応答)
- 先行事例調査(類似プロジェクトや研究の調査・分析、当事者へのインタビュー等)
- メンタリング(知識・経験の豊かな先輩から助言や講評などのアドバイス)
- プロジェクト計画書の作成(計画書作成で甘さを認識、予算・実施期間の視覚化)

クリティカルな講評

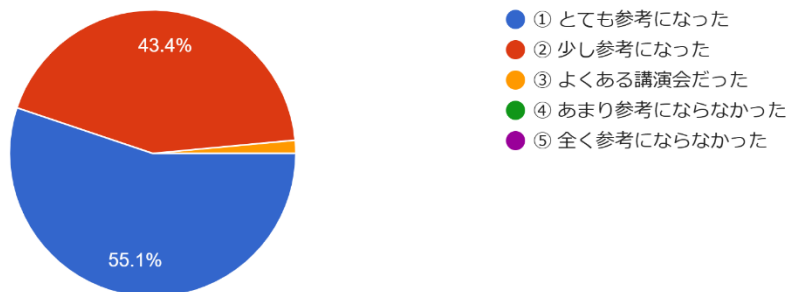
好きを極める(～になりたい)	嫌だを解決する(～という課題に取り組む)
・～になりたいだけでは探究にならない。 ・時間も忘れるくらい夢中になれることか。 ・今までにそういう人はいませんでしたか。 ・いなかったとしたら、それはなぜですか。 ・そのために何かを既にはじめていますか。 ・それはずっとやっていけることなのか。	・それは抜本的・本質的な課題なのか。 ・その「嫌」に共感してくれる人はいるか ・なぜこれまで解決されなかったのか。 ・今まで解決を試みた事例はないのか。 ・なかったとしたら、それはなぜか。 ・解決に向けて何かを既に始めているか。

最後に3人の大学生のプレゼンテーションを聞き、講義を終了した。



I 今回の講演会は、今後の探究活動のヒントになりましたか。

136 件の回答



【Iと答えた理由】

- 今回の講演会では、社会や大学入試で「探究活動」が求められている理由や探究活動を行うときに大切なことについて知ることができたから。
- 探究活動をどのように進めるのか、またどのようなテーマをもとに考えていけば良いのかを知る機会になったから。
- 探究活動を多角的な視点から解説してくれて今までの考えがバージョンアップされた気がして面白かったから。また、大学生の話を聞いてカッコいいなと思ったから。

【講演を通じてわかったこと】

- アンケートに答えたときは好きなことは探究活動を進めやすいと思ったけどよっぽど好きじゃないと難しいことがわかった。少しでも日常で気になることがあったら考えてみるクセをつけてみようと思いました。
- インパクトを生み出すのは、アイデアの失敗と成功の付加価値の掛け合わせだという言葉が印象に残りました。また、知らない分野の「好き」を見つけるために様々なことに飛び込んでみるのも大事だと思いました。失敗に価値を生み出せるように、成功するまで挑戦してみたいです。
- これから自分たちが考える探究活動のほとんどは、誰か別の人が既に思いついていて、新しいことを見つけることがどれだけ難しいか分かった。また、正解もないので、やってみることが大事であることが分かった。

・実際の大学生の方々がどんな探究をしているのかについて知ることができて、それぞれの探究の考え方も違って
いて面白いなと思いました。発明についても考え方が変わりました。また、「やってみよう」「ありがとう」「ありの
ままに」「なんとかなる」の well being を知ることができました。